

2019年度 授業改善に係る学生との懇談会について

令和2（2020）年2月7日

滋賀文教短期大学

1. 実施概要

<国文学科>

日時：令和元（2019）年9月25日（水）4限目 14時35分～16時5分

参加者：国文学科教員3名、国文学科1年生2名、国文学科2年生2名

副学長1名、学務課職員1名、改革支援部職員1名

<子ども学科>

日時：令和元（2019）年9月25日（水）5限目 16時15分～17時45分

参加者：子ども学科教員5名、子ども学科1年生3名、子ども学科2年生4名

副学長1名、学務課職員1名、改革支援部職員1名

2. 実施目的

各科目において授業の最終回頃に、授業アンケートを実施しています。その際に学生から出された授業に対する意見の概要を本学で把握し、授業改善を図ってきました。

しかし、授業アンケートが無記名式で、数値として年度比較を行う都合からアンケート項目のほとんどが選択式であり、書かれた内容や集計した結果・傾向がどのような意味であるかを詳しく大学が把握できないという課題もありました。

そこで、今回は授業を改善するための意見をより詳細に把握するため、教員と学生が直接懇談する機会を設けました。

3. 本学の対応

本学では、授業方法等の改善についてFD委員会で意見を集約して企画・運営を行っています。FDとは、Faculty Development の略称で、授業をはじめとする教育内容や方法の改善を図るための研修を指します。

今回出された意見は、FD委員会から当日出された意見の内容に関連する学科や部署に確認を取り、FD委員会として意見を蓄積し、今後の本学の授業をはじめとする教育改善の活動に役立てます。

当日は活発な議論が生まれたことから出された意見が多く、そのすべてにつぶさに回答することは困難です。そのため、明確に決定している主な点について回答し、その他は担当部署において今後の教育改善に活かします。

しかし、実際に既に対応が進んでいるものは、大学として明確な回答が可能であるため公表します。

例えば、国文学科の授業科目数は、子ども学科に比べるとやや少ない傾向にありました。選択できる科目数が少ないということは、学びの幅が狭いということでもありました。国文学科において開講科目数を増やすことは既に予定されています。

また、夕刻に学外での活動を伴う授業を行うと危険性があるということについて具体的な説明が懇談会に出席した学生よりなされました。本学としても学生の安全性を確保しながら授業を行う必要があります。学

外での活動を伴う授業は、時間割を作成する際に可能な限り 16 時を過ぎる 5 限目に当てないように改善します。

4. より良い授業を目指して

授業とは、教員と学生が一緒に作り上げていくものです。教員は、本学学生にとって分かりやすい授業を行う努力が必要です。そして、学生は、短期大学生として主体的に意欲を持って学ぶ姿勢が必要です。授業の担当者と受講者が双方向に努力することで、より良い授業になります。

5. 意見箱について

今回は実施の都合上、無作為に選出した一部の学生に参加してもらいました。参加できなかった学生、そして当日参加した後に引き続き述べたい意見のある学生は、ぜひ学務課前の学生ホールに設置している「意見箱」を活用してください。

「意見箱」には、授業を含む学生生活全般のことについて無記名で意見を出すことができます。随時、本学が投書状況を確認して、担当する部署や学科に伝えて対応が検討されます。

6. 次年度の実施予定

2020 年度も、授業改善に係る学生との懇談会を開催予定です。

今回は実施初年度ということもあり、実施方法についても改善点がありました。また、回答となる情報公開が実施日から数か月以上経ったことも反省点の一つです。

大学全体で学生より出された意見をしっかりと検討するため情報公開までに一定の時間は要しますが、次年度はより迅速な回答を目指します。

また、各科目に対する個別の意見は授業アンケートで対応し、授業改善に係る学生との懇談会ではより具体的な意見を学生から引き出すためにテーマを設定する予定です。そのテーマは、授業アンケートで見受けられる意見や教職員が課題と感じている事柄を集約し、FD 委員会で決定します。

以上